



5
16

301点の中から栄冠
第24回J.Aとぴあ浜松花き展示品評会表彰式

2月にイオンモール浜松志都呂店で開催した「花き展示品評会」の表彰式を行いました。301点の中から、金賞1〜15席に輝いた生産者に、齊藤直司営農担当常務から賞状と記念品が贈られました。また、特別賞として金1席の岡田浩一さんに県知事賞も贈られました。



5
14
15

本格出荷始まる
特産「三方原馬鈴薯」の初選果と目ぞろい会

馬鈴薯選果場で「三方原馬鈴薯」の目ぞろい会と初選果を行いました。今年は、4月から気温が上がって適度の降雨もあり、順調に生育しています。出荷は7月下旬まで続き、東京の他、大阪、名古屋の市場を中心に、約3,860tを見込んでいます。



4
28

ミカン生産に向け学習スタート
農ライフセミナーみかん開講式

湖北営農果樹センターは、農ライフセミナーみかんコースの開講式を開き、受講生、J.A職員など16人が参加しました。開講式後に講座も開き、柑橘の種類や、おまかな栽培管理について学習。今後は毎月1回、第4日曜日に開講し1年を通して栽培を学びます。



4
28

生産量の維持拡大を目指して
「バセリの楽園プロジェクト」開講式

中央区館山寺町で、「バセリの楽園プロジェクト」今年度の開講式と第1回目の講座を開きました。5人の受講生たちは、月に1回の講義や作業体験、先輩農家の畑の見学などを通して、栽培の基礎から収穫、出荷までを総合的に学んでいきます。



5
24~

職員の親へ安心を届ける
新入職員宅へ家庭訪問

今年度から当組合では所属長が新入職員の家庭を訪問する取り組みを行っています。これは、昨今社会問題となっている若年者の離職率の高さを抑止するための施策で、職員の親に入組からの様子や仕事内容を伝え、家庭と共に成長を見守る取り組みです。



5
23

ブランド力強化に向けて結束
柑橘生産者大会

柑橘部会はブランド力を強化し、産地を維持・発展させるため「みをつくし文化センター」で柑橘生産者大会を開きました。生産者ら約300人が出席し、昨年度の優秀出荷者表彰や、今年10月から稼働する新しい選果機の説明などを行いました。



5
10

選果基準をじっくり確認
宮口小梅目ぞろい会

柿梨選果場で宮口小梅の目ぞろい会を開き、生産者やJ.A担当者25人が参加しました。宮口小梅は、肉厚で種が小さくさっぱりとした甘みの特徴です。参加者はサンプルを使って、大きさや傷の範囲など選果基準を確認。5月中旬まで市内の市場を中心に出荷しました。



5
9

選果基準をしっかりと共有
春作トマト目ぞろい会

トマト選果場で春作トマトの目ぞろい会を開き、生産者や市場関係者など11人が参加。情勢報告の後、全員で品質や色、形状などの選果基準を話し合いました。春作トマトは、5月下旬から7月下旬まで県内や関東、関西の市場へ出荷する予定です。

